

大腸がん術後地域連携パスについて

- * 基幹病院で手術治療をされた患者さんに対して、お近くの連携医と基幹病院の両方で連絡を取り合い、術後の定期的検診を行っていくために作られた一連の書式（パス）です。
- * これにより、基幹病院への頻繁な通院が不要となり、通院の不便さや外来での長い待ち時間からも解放されます。また、複数の主治医によるサポートが受けられる長所が生まれます。
- * パスについての詳細は「結日記」をご参照ください。

通院の基本

- * 通院の基本は、処方や血液検査など通常の通院は連携医で行い、基幹病院へは半年～1年に一度、画像検査のために受診します。
- * 再発の危険性は術後1～2年をピークに年々減少し、術後5年間再発がなければまず完治と判断します。
- * どちらに通院する場合も、このパスを必ず持参してください。
- * 病気が再発したり新たな疾患が発見された場合は、このシステムを中断して基幹病院へ通院していただきます。

